

演じて感じて、老いと出会う！

「老いと演劇」ワークショップ



2025

11/22 (土) 9:30 ~ 11:30

OiBokkeShi主宰の菅原直樹さんを講師に迎え、演劇体験を通じて楽しみながら認知症の人とのコミュニケーションを考えるワークショップです。演劇と介護は相性がいい！老いについてのあらたな〈まなざし〉を探しに行きませんか？

申込締切
2025年

11/12

必着

[場所] 都立多摩図書館 セミナールーム1

[参加費] 1,000円

[申し込み] 専用フォーム、またはFAXにてお申込みください

お問い合わせ 特定非営利活動法人ワーカーズ風ぐるま

(電話・FAX) **042-300-3663** (土日祝を除く9:00~17:00)

「 老 い と 演 劇 」 ワ ー ク シ ョ ー ッ プ



地域に

「老い」「ぼけ」「死」の

明るい未来をあぶりだします。(OiBokkeShi)

演劇体験を通じて楽しみながら認知症の人とのコミュニケーションを考えるワークショップです。参加者同士で認知症の人と介護者を交互に演じて、認知症の人の言動を否定せずに受け入れるコミュニケーションや、言動を否定されたときの認知症の人の気持ちを疑似体験してもらいます。実際に身体を使って演じることで、認知症ケアの気づきやヒントを講師と参加者間で共有していきます。演劇・介護経験は不問です。

講師プロフィール：

菅原直樹(すがわらなおき)

1983年栃木県宇都宮生まれ。劇作家、演出家、俳優、介護福祉士。「老いと演劇」OiBokkeShi主宰。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。2010年より特別養護老人ホームの介護職員として働く。2012年、東日本大震災を機に岡山県に移住。認知症ケアに演劇的手法を活用した「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。超高齢社会の課題を「演劇」というユニークな切り口でアプローチするその活動は、近年演劇、福祉のジャンルを越え多方面から注目を集める。平成30年度（第69回）芸術選奨文部科学大臣新人賞（芸術振興部門）受賞。セゾン文化財団2025年度セゾン・フェローII。



撮影：富岡菜々子

まちのなかにはいろんな人が暮らしている。だれもがかならず老いていく。なのに「なぜだか」高齢者”認知症”と聞くと、どこか遠い世界の話のような気がする」年を重ねて今までとはちがう人ようになってしまった家族を、どう受け止めたいんだろう」…

身近なだれかのために、老いていく未来の自分のために、演劇を通して未経験の老いを感じてみませんか？新しい関係性のヒントがきっと見つかります！

日時 2025年（令和7年）11月22日（土）9：30～11：30

定員 30名（申込開始：10/6 ※先着順）

参加費 1,000円

会場 都立多摩図書館2階 セミナールーム1

（〒185-0024 東京都国分寺市泉町2-2-26）

JR中央線・武蔵野線「西国分寺駅」南口から徒歩7分

申込方法 専用フォームまたはファックスにて

▼専用フォーム



氏名	職業／学校名
連絡先	メール
応募動機	

お問い合わせ

特定非営利活動法人ワーカーズ風ぐるま

（電話・FAX）042-300-3663（土日祝を除く9：00～17：00）

主催：特定非営利活動法人ワーカーズ風ぐるま 共催：国分寺ACT